

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果の分析及び活用について

学校名	伊勢原市立桜台小学校
-----	------------

1 調査結果の分析及び考察

	特長	課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の領域「書くこと」について、正答率が高かった。特に資料に使う図表やグラフの目的や工夫について、よく理解している。 ・目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むことができる。 ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができる。 ・総じて国語への関心・意欲が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・「数と計算」の領域について、理解が深い。示された式の意味や、除法の性質をよく理解している。 ・示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる。 ・目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・台形について理解すること。
質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感が高く、将来の夢や目標を持っている児童が多い。人の役に立ちたいと感じている児童も多い。 ・学級・授業での話し合った活動での成功体験を覚えている児童が多い。話し合いの活動を通して自分の考えを深めたり、広めたりできていると思っている児童も多い。 ・学校の決まりを守り、学校に行くのが楽しいと感じている児童が多い。 ・授業で学んだことを、ほかの学習に生かしたり、算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えたりと、学習に前向きに取り組む姿勢がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答している割合は高いが、そう思わない児童が少数でもいること。 ・図書室や図書館に行く回数が少ない児童、読書が好きではないという児童が少なくないこと。 ・5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTを使用した頻度が少ないこと。

2① 授業の充実に向けた重点的な取組

<p>・国語は書くこと・読むこと・聞くこと・話すこと、どの領域も好結果であったことは、校内研究の成果と考えられ、これまでの授業形態を継続していく。日頃の漢字テストでは書くことができるが、今回の調査では書けなかった児童が多かった。新出漢字の練習時に、様々な熟語や短文作りなどに取り組みせ、その使い方が身に付くように指導する。さらにそれを日常生活に生かせるよう、読書活動や新聞を読む場面を取り入れていく。</p> <p>・算数に関しては、数を操作する学習に比べて、図形の理解に弱さが目立った。図形の学習には、時間をかけ丁寧に指導していく。</p> <p>・児童は、自分の意見を書いてまとめ、伝え合う活動に積極的に取り組み理解を深めている。さらに理解を深められるようICTを生かした授業を工夫していく。</p>
--

2② 家庭(地域)への発信内容(協力依頼事項) ※家庭で取り組んでほしい内容や地域の方に知っておいてほしい内容

<p>・この調査では、本校の6年生は将来の夢や目標を持ち、学校のきまりを守り、楽しんで学校に通ってくる児童の割合が全国平均より高いという結果でした。朝食を食べる児童、規則正しく生活している児童の割合も多く、それぞれのご家庭で大切にしっかりと育てられてきたことがよくわかります。日頃から、落ちつきのある、下級生のお手本となる6年生です。ご家庭の愛情と地域の皆様の見守りの賜物です。今後とも、児童が素直に成長していけるように、連携していただきますようお願いいたします。</p> <p>・読書習慣がっていない児童が多いことがわかりました。学校では図書室に行くことを勧めます。ご家庭でも、ゲームやテレビの時間を少しでも読書に回せるよう働きかけてください。</p> <p>・質問紙の回答で「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と答えている児童の割合が全国平均より低かったため、いじめや差別を許さないという認識や態度を、学校・ご家庭・地域の皆さんで共有していきましょう。私たちがもっと児童一人一人の良さを認めていくよう心がけます。</p>
--